

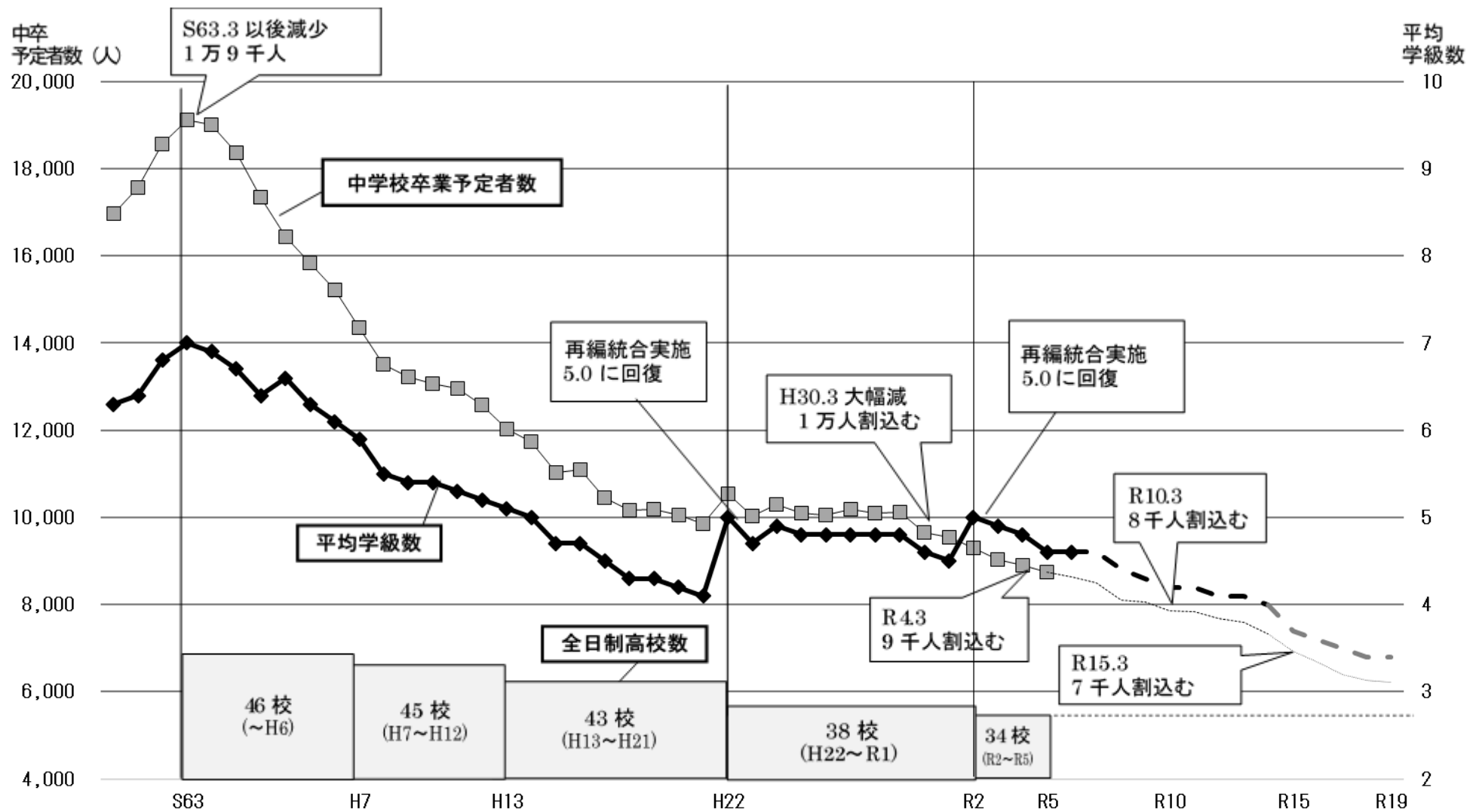
県立高校教育振興フォーラム

富山県教育委員会

【富山会場】 令和6年1月22日(月) 19:00~20:00 富山県民会館401号室

【高岡会場】 令和6年1月30日(火) 19:00~20:00 高岡エクール201号室

今後の中学校卒業予定者数の推移



※ 全日制高校数は1学年を募集している学校数
 ※ 中学校卒業予定者数の算出について、S63年～R14年は学校基本調査(各年5月1日)を基にした生徒数。R15年～R18年は県の人口移動調査(R4年10月1日)に基づく推定値
 ※ R7年以降の平均学級数(学級数÷学校数)は、公私比率を70.8%と仮定し、学校数を34校で維持した場合の見込み
 ※ 中学校卒業予定者数は、記録が残るS27の21,176人以降、S38の31,995人が最大数となっている。

今後の県立高校のあり方について

○令和3年8月～令和5年5月

令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会（9回開催）

「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」では、魅力ある高校教育を通じた「ウェルビーイングの向上～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～」を基本理念とし、3つの県立高校づくりの目指す姿を掲げ、その実現に向けて、6つの観点から、具体的な方策について取り組むことが必要とされた。

また、「今後の再編計画については、今後も中学校卒業予定者数の大幅な減少が見込まれることから、『令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会』や総合教育会議での議論を踏まえ、県立高校の学科等の見直しや高校再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について、令和5年度以降、できるだけ速やかに新しい検討の場を設け、丁寧に検討していく必要がある。」とされた。

※「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」（令和5年5月策定）
<https://www.pref.toyama.jp/3003/kurashi/kyouiku/gakkou/arikata/arikata.html>



○令和5年6月～**現在**

県立高校教育振興検討会議

- (1) 県立高校の再編に関する学校規模・基準に関すること、
- (2) 県立高校の学科・コースの見直しに関すること、
- (3) 様々なタイプの学校・学科等に関することについて検討。

今年度中に、各検討事項の基本的な方針について提言をとりまとめられる予定



○令和6年度～

総合教育会議

検討会議の提言を受け、知事が主宰する総合教育会議において、再編の基本方針や新しい学科・コースの開設等について検討が進められる予定。

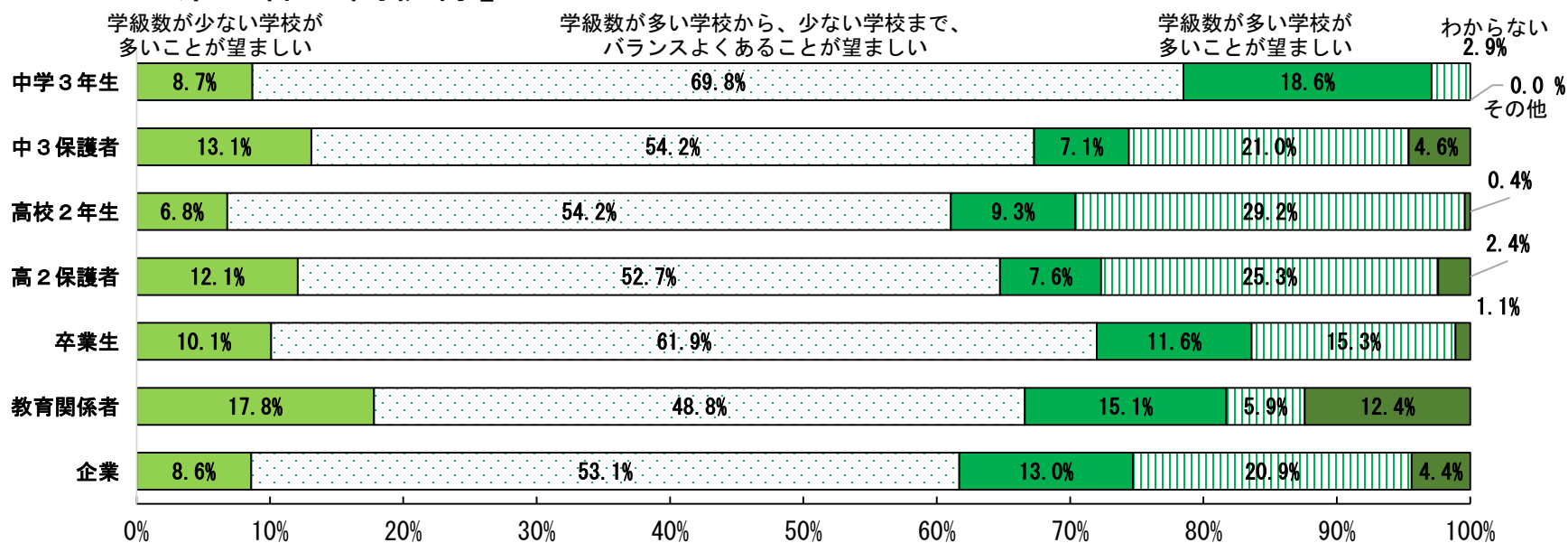
県立高校のあり方に関するアンケート調査結果

- ・調査時期：令和4年8月22日(月)～10月7日(金)
- ・調査対象：中学3年生、中学3年生保護者、高校2年生、高校2年生保護者、卒業生、教育関係者、企業

○「高校選択の際に重視すること」※回答数が多かったもの (%)

	中学3年生	中3保護者	高校2年生	高2保護者	卒業生
・中学校における自分(お子さん)の成績	52.4	61.5	51.5	58.6	48.7
・自宅からの距離や時間などの通学条件	41.8	58.5	37.6	46.5	41.8
・設置されている学科やコースの学習内容	38.9	48.1	34.2	44.9	34.9
・学校の校風、イメージや伝統	35.1	27.9	17.0	24.0	21.2
・学校行事や部活動の状況	29.9	18.8	20.3	16.1	27.5
・大学などへの進学先や進学者数	24.4	30.2	15.9	19.0	18.0

○「望ましい県全体の高校像」



県立高校配置の方向性の考え方

※第4回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿(素案)」より抜粋

報告書のアンケート調査結果では、「高校選択の際に重視すること」として、「中学校における成績」に次いで「通学条件」や「学科やコースの学習内容」の回答が多かったことから、様々な学科構成を有する県立高校が県全体において適所に配置されるよう、学科・コースの見直しを含め、多様な視点から検討することが重要である。

また、「望ましい県全体の高校像」として、「学級数が多い学校から、少ない学校までバランスよくあることが望ましい」の回答が多かったことから、集団の中で多様な考えに触れる機会が多く、様々な種類の科目や部活動等を設置できるため選択の幅が広がりやすい「中～大規模校」と、生徒一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい「小規模校」の双方をバランスよく配置することが望ましいと考えられる。

以上のことから、県立高校は、生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置することが望ましい。また、その実現にあたっては、生徒が学びたい、学んでよかったと思える魅力ある高校づくりを目指すとともに、社会の変化、産業界のニーズを踏まえた、再編統合や学科・コースの改編に取り組むことが望ましい。

県立高校の目指す姿

※第4回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿(素案)」より抜粋

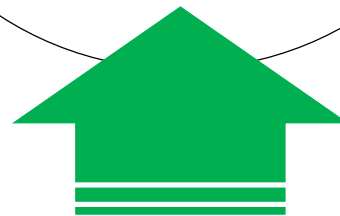
魅力ある高校教育を通じた「ウェルビーイング」の向上 ～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～

目指す姿

未来を切り拓くことができる、確かな資質・能力を身につける、学びの質の向上

協働的な学びや多様な価値観に触れることができる、生徒の幅広い選択肢の確保

多様化する社会の形成に主体的に関わる力を育成し、社会のニーズを踏まえた教育体制の整備



【令和の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた6つの方向性】

- I. 各学校の特色や魅力をさらに深化させるための取組みを重点的に推進
- II. 地域・大学・企業や学校間等の連携による取組みの推進
- III. ICTの活用による学びの充実の推進
- IV. グローバルに活躍する生徒の育成の推進
- V. 魅力と活力ある学校づくりを推進するための教育環境の整備
- VI. 配置や定員、再編・統合等にかかる具体的な検討

学びの改革 《とやまの新しい教育の創造》

+ 新たな学び・多様な学び・未来を拓く学びの場を目指して

【学科構成】

職業系専門学科単独校

- ・多様な小学科を設置

総合選択制高校

- ・複数の学科の枠を超えた学びを实践

普通科系高校等

- ・教科等横断的な学びを实践
- ・特色ある学びができるコース等を設置
- ・地域の特性を生かした学びを实践

総合学科設置校

- ・普通科と職業系専門学科の両方を学べる科目を開設

【学校規模】

中～大規模校

- ・幅広い学びの選択肢を確保するため、多くの学科や科目を開設する高校
- ・設置学科の一部に特色あるコース等を導入する高校
- ・特色ある学びに必要な科目を開設する高校

小規模校

- ・専門的な科目に特化した教育課程の作成等の工夫により、小規模でも運営が可能な高校
- ※小規模のメリットを最大限に生かす工夫が必要



- ・様々なタイプの学校・学科の検討（全国募集、国際バカロレア認定校、中高一貫教育校、外国人生徒に係る特別定員枠等）

学科・コースの検討

検討会議における主なご意見

農業科

- ・ 富山県にとっては、農業、水産はとても大切。もう一つの特徴は工業県ということ。こういう分野で全国からうらやましく思われるような高校のあり方をデザインすべき。
- ・ 農業科や水産科では、関連する就職や進学者の割合が低い。「このカリキュラムのままでいいのか」までを含めて検討していかなければならない。

工業科

- ・ 工業系では、工業デザインなど女性が入ってもらえるようになるとよい。地場産業においてデザインで付加価値を上げていくことを、県内でできるようにしていくことは人材育成の意味においても価値がある。
- ・ 工業科に細かい、いろいろな科があっても「この先には何が待っているのだろう」とよくわからないところがある。一括募集や学科の名称変更があれば「行ってみようか」という気持ちになるのではないか。

普通系学科

- ・ デジタル化の進展と社会の変化により、高校教育にデータサイエンスを取り入れる重要性が増している。文系理系に関わらず応用されるデータサイエンスは、生徒たちの分析力や問題解決力を育成する。
- ・ 社会のニーズに鑑みるとデータサイエンスコースやグローバルコースは、まさに生徒が学びたいと思え、高校卒業後の進学や実社会で生かせるもの。しかし、設置する場合は、コースの特色をしっかりと考え、PRしていくことも大切。

商業科・家庭科

- ・ 職業科の中には、進学者が生徒の7割～8割となっている学科もある。普通科の中のコースとして、特色ある教育内容を残していく方策もあるのではないか。
- ・ 職業科でどのような力が身につくのか、入学してみないと分からないということが、子どもたちにとっては不安であり、最初から選ぶことができない生徒が増えている。子どもたちが自分の好きなところで学び、力を伸ばすことができる多様な学科が県全体にバランスよく配置されるとよい。

「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」より

総合学科：全県的な視野に立って、総合学科のある学校の配置バランス、定員設定等の検討

水産科：中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等の検討

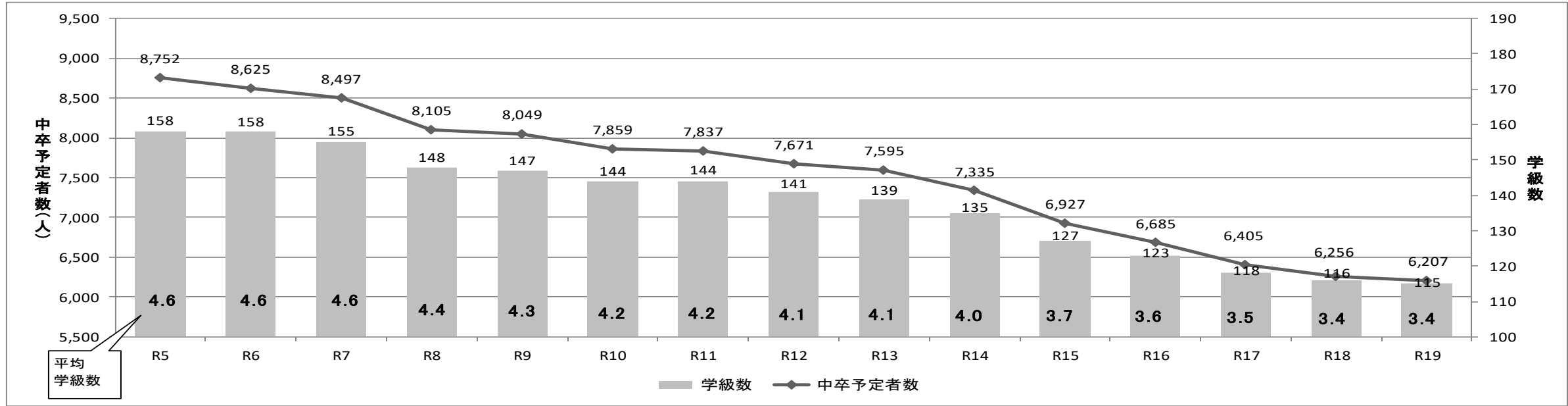
看護科：県内の高等教育機関において、看護教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討

福祉科：県内の高等教育機関において、介護福祉教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討

様々なタイプの学校・学科等の検討

	全国募集	国際バカロレア (IB) 認定校	中高一貫教育校	外国人生徒に係る特別入学枠
概要	<p>本県における県外生徒の受入れについては、県立高校入学者選抜において、原則として、「本人及び保護者が本県内に居住している、または近く居住することが確実であること」を志願資格としており、<u>生徒単独の移住を前提とした受入れは行っていないのが現状。</u></p>	<p>国際バカロレア (IB) とは、<u>課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラム。</u></p>	<p>中高一貫教育は、生徒や保護者が、<u>これまでの中学校・高等学校に加えて、6年間の中高一貫教育も選択することができるようにすることにより、中等教育のより一層の多様化を推進するものとして、平成11年4月から制度化されている。</u></p>	<p>本県では、平成23年度実施の県立高校入学者選抜より、入国後6年以内の外国人生徒から申請があった場合、<u>検査問題の漢字にふりがなを付すこととし、日本での生活が短いことで、日本語での受検が困難である生徒に配慮している。外国人生徒に係る特別定員枠については設定していない。</u></p>
検討会議における主なご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・南砺平高校の郷土芸能部は素晴らしい成績を収めているし、スキー部はオリンピック選手を輩出している。寄宿舍もあるので前向きに検討してほしい。 ・寄宿舍では週末や長期休業期間に対応できないならば下宿という方法もあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・莫大な人材投資が必要であり、昨今の国際情勢を考えるとグローバル化ばかりが魅力的というわけではない。慎重に議論すべきではないか。 ・専門的な教員や施設設備の充実、多額の予算等を考えると県立高校では設置が難しいのではないかと。グローバルコースのようところで、英会話力を高めながら探究活動に力を入れる方が適しているのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校などで特色を持たせるのはよい。 ・都会ではメリットがあるようだが、富山県では少し事情が違っているのではないかと考えていた。しかし、子どもたちの選択肢を広げるためには検討する価値はある。 ・中高一貫教育校にはメリットとデメリットがあると思う。もし、設置するのであれば富山県ならではの魅力が詰まったコンセプトを考えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校に行きたいと思う外国籍の生徒には、その機会を保障してほしい。県立でも私立でもよいので、その仕組みを県でつくっていただきたい。 ・外国人生徒を受け入れる場合の教育環境において、特別な教育課程の編成や人員の確保、その他の支援体制の整備などが十分でない限りは、入学した生徒に十分な教育を行うことができないことが課題としてある。

学校数(34校)を維持した場合の平均学級数の見込み



年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
中卒予定者数*1	8,752	8,625	8,497	8,105	8,049	7,859	7,837	7,671	7,595	7,335	6,927	6,685	6,405	6,256	6,207
学級数*2	158	158	155	148	147	144	144	141	139	135	127	123	118	116	115
前年度比	▲ 5	±0	▲ 3	▲ 7	▲ 1	▲ 3	±0	▲ 3	▲ 2	▲ 4	▲ 8	▲ 4	▲ 5	▲ 2	▲ 1
R5年度比	基準	±0	▲ 3	▲ 10	▲ 11	▲ 14	▲ 14	▲ 17	▲ 19	▲ 23	▲ 31	▲ 35	▲ 40	▲ 42	▲ 43
平均学級数	4.6	4.6	4.6	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	3.7	3.6	3.5	3.4	3.4
R5年度の在籍学年	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳

*1 当該年度の学級数の算定基礎となる、前年度の中学校卒業予定者数を記載。

R6～R14は学校基本調査(R5. 5. 1)の在籍者数、R15～R19は人口移動調査(R4. 10. 1)に基づく推定値。

*2 中学校卒業予定者数をもとに、法律に基づく1学級40人を前提として、また、R5年度以降の公私比率を70.8%と仮定して、学級増減数を算定し、令和5年度を基準として算出。

現状(平均4.6学級)を維持する場合、R14年度までに4～5校、R19年度までに9～10校の減が必要となる。

県立高校再編の必要性

検討会議における主なご意見

- ・ 平均的にダウンサイズしていくだけでは、子どもたちの幸せの総量も減る。それぞれの高校の魅力が高まり、子どもたちの幸せの総量が膨らむような再編であればよい。
- ・ 教育目的や教育目標について再度確認し、それぞれを達成するための効果的な教育方法にはどのようなものがあるか、また、それぞれの教育方法や扱う教材に関する適正規模のクラスについて検討できればよい。
- ・ 報告書に「高校生ファーストで考えるべきではないか」という意見が記されていたが、そういうことを念頭に置きながら、今後10年、20年先の富山県の教育がどうあればよいかを議論していきたい。

※第4回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿(素案)」より抜粋

令和2年度の県立高校再編は令和8年度を見通して実施され、生徒の学習環境改善において充実が図られた。しかしながら、「県立高校再編の基本方針」(H29.9.7)において、別途、対応を協議することとされた令和9年度以降の中学校卒業予定者数の推移を踏まえると、現在の学校数を維持した場合、多くの県立高校が小規模校となることが予測される。また、令和2年度の再編統合検討時の想定を超える、急激な中学校卒業予定者数の減少が推定されることから、高校再編については、これまで以上に長期的な展望に立つことも必要である。

再編に関する基準(例)

※第3回検討会議資料より抜粋

1	令和2年度の基準 学校規模が、 <u>1学年4学級未満又は160人未満</u> の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。その際、1学年3学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。 なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。
2	基準を引き下げる 学校規模が、 <u>1学年3学級以下又は120人以下</u> の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。その際、1学年3学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。 なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。
3	基準を引き上げる 学校規模が、 <u>1学年4学級(5学級)以下又は160人(200人)以下</u> の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。その際、1学年3学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。 なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。
4	学校規模の基準を設定しない(県立高校配置の方向性のみ) <ul style="list-style-type: none">生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができることを目指し、様々な学科構成や学校規模の学校をバランスよく配置する。学校規模に関する基準は設定しない。
5	志願状況や欠員状況 (例)入学志願者数が3年連続定員に満たない高校で、今後も増加の見込みがない場合再編整備の対象とする。 (例)第1学年の生徒数が2年続けて一定の人数を下回った場合は再編整備の対象とし、2年連続でさらに少ない一定の人数を下回った場合は翌年度の生徒募集を停止する。

検討会議におけるご意見

第3回検討会議において、再編に関する基準として5つの例などを参考にご検討いただいたところ、「1学年4学級未満を検討対象とするこれまでの基準がよい」といったご意見と、「今後の大幅な生徒数の減少を想定し、（4学級以下等に）基準を引き上げるべき」といったご意見が多く、ほぼ同数であった。

また、「基準を引き下げて3学級以下の学校ができてもいいのではないか。小規模校の良さもあれば、規模が大きい良さもある。」といったご意見もあった。

（主なご意見）

- ・規模だけでなく、学科やコースなど県全体のバランスを見極め学校を配置することが必要。令和2年度の基準を前提とし、必要があれば修正を加えるような捉え方で進めていけばよい。また、これまで通り規模の小さい学校から検討することが必要だろう。
- ・これまで様々議論され、令和2年度の基準が設定されてきた。教員数の確保や生徒が部活動などで仲間たちとともに過ごしたいという気持ちなどを考えての基準であったと思うので、この基準がよい。
- ・これまで通りの基準または、引き上げがよいと思う。総合的な探究の時間では、生徒が自ら課題を見つけて探究することが求められている。このような多様な学びに応えていくためには、それなりの教員や学校規模が必要。
- ・教育の水準を考えると4学級は最低でも必要。基準を引き上げて幅広く検討する方がよい。その中で、小さい学校を全て統合するのではなく、地域の実情に応じた再編も必要になってくる。
- ・10年後、15年後を想定して検討する必要がある。基準を引き上げることで志願状況や欠員状況も十分考慮できる。そういう柔軟性に富んだ考え方を持つべき。
- ・基準を引き下げ3学級以下の学校ができてもいいのではないか。小規模校の良さもあれば、規模が大きい良さもある。数の規模で全て判断するというのは違うと思う。
- ・基準を設けるのはどれも悩ましいが、志願状況や欠員状況を基準にすることについては慎重な検討が必要ではないか。定員割れが起こっていても、その学校・学科がなくなると、本当に困ることが起きてくるのではないかと思う。

再編検討の方向性

※第4回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿(素案)」より抜粋

○県立高校の目指す姿の実現に向け、再編統合や学科改編等により、魅力と活力ある学校づくりを推進するため、学びの質を向上し、教育体制を整備できるよう検討を進める。

また、生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置するための検討を進める。

○現在の学校数を維持した場合、今後、多くの県立高校が小規模校となることが予測されることを踏まえ、学校規模が、1学年4学級未満又は160人未満の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。

ただし、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、検討の対象としないことも考えられる。

なお、令和15年度以降の中学校卒業予定者数の推定値の急激な減少を鑑みると、さらに長期的な展望に立つて様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置するための高校再編を検討するには、学校規模が、1学年4学級以下又は160人以下の規模の学校についても再編統合の検討の対象とするなど、検討の範囲を広げるとも考えられる。

検討会議における主なご意見

- ・ 今までに経験のないほど子どもの数が圧倒的に減っていく中で県立高校の再編を議論するには、しっかりしたビジョンが必要。今回示されたビジョンは、子どもを中心とした視点に立つということが明確になっており、よい方向になってきたのではないかとよい。
- ・ 小規模校、大規模校それぞれの良さがある。これが、子どもたちの選択肢になっていくとよい。
- ・ 再編検討の方向性に示された再編統合や学科改編等を一体的に検討していくという原案は、これまで議論を重ねてきたことが網羅されている。小規模校、中規模校、大規模校の役割と併せて様々なタイプの学校等についても検討を深めていけるとよい。
- ・ 小規模、中規模、大規模が偏りなく、子どもたちが通いやすいものになるとよい。
- ・ 少子化が進む中、高校再編は必要だと思うが、地域において子どもたちの教育環境を確保し、子どもたちが本当に自分でやりたいことができる学校へ行けるようにしてほしい。
- ・ 生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質を向上させるためには、1校当たりの教員数と生徒数の確保が重要。再編検討の方向性は、現行の教員配置等の規則制度において、生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質の向上を図ることを目指したものと見える。

(参考) 令和6年度 県立高校(全日制)の学校規模(第1学年募集定員) (平均4.6学級)

学級数 (学校数)	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区
8学級 (1)		富山工業 (工8: 320人)		
7学級 (2)			高岡工芸 (工7: 270人)	南砺福野 (普4国1農1福1: 250人)
6学級 (7)		富山 (普4探2: 240人)	高岡 (普4探2: 240人)	
		富山中部 (普4探2: 240人)		
		富山北部 (普3工2商1: 240人)		
		富山商業 (商6: 240人)		
		富山東 (普6: 240人)		
	呉羽 (普6: 230人)			
5学級 (7)	桜井 (普3工1家1: 200人)	富山南 (普5: 200人)	高岡商業 (商5: 200人)	
	滑川 (普2工1商1水1: 200人)	富山いずみ (総4看1: 190人)	氷見 (普2農水1商1家1: 200人)	
	入善 (普4農1: 170人)			
4学級 (10)	魚津 (普4: 160人)	八尾 (普4: 160人)	新湊 (普3商1: 160人)	砺波 (普4: 160人)
	上市 (総4: 150人)	富山西 (普4: 160人)	高岡南 (普4: 160人)	石動 (普3商1: 160人)
			小杉 (総4: 150人)	砺波工業 (工4: 140人)
3学級 (6)	雄山 (普2家1: 120人)	中央農業 (農3: 76人)	大門 (普3: 120人)	
	魚津工業 (工3: 105人)		福岡 (普3: 120人)	
			伏木 (国3: 105人)	
2学級 (0)				
1学級 (1)				南砺平 (普1: 30人)